

講義コード	IJ003012
講義名	アスレティックトレーナー概論Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J1-2402S
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 木村 範子	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

木村 範子〔はり師・きゅう師、アスレティックトレーナー〕

目的

本講義時では、アスリートを取り巻くさまざまな環境のもとアスレティックトレーナーが知っておくべき諸問題の基礎をスポーツ現場の最新情報とともに学びます。生死に関わる現場に遭遇した場合、チームや遠征にアスレティックトレーナーとして帯同する場合に必要な医学知識を学ぶことが目的です。またグループワーク、相手への伝え方を工夫することを通じてプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上を目的に課題を行います。

到達目標

アスレティックトレーナーになるために必要とされる基礎知識の習得、スポーツ現場で対応できる一次救命処置を実施できる。グループワークやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力の向上。将来に向けてのビジョンについて具体的に考えることができる力の取得。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／指導力

授業計画

1. 自己紹介・救急処置 (CRP/AED)①
2. 救急処置 (CRP/AED/RICE)②、アスリートの健康管理①
3. アスリートの健康管理 ②
4. アスリートの内科的障害と対策 ①
5. アスリートの内科的障害と対策 ②
6. アスリートの外傷・傷害と対策 ①
7. アスリートの外傷・傷害と対策 ②
8. アスリートの外傷・傷害と対策 ③
9. アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画①
10. アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画②
11. スポーツによる精神障害と対策
12. 特殊環境下での対応
13. アンチドーピング
14. コンディショニングの手法① (ストレッチング、icing)
15. コンディショニングの手法② (テーピング、マッサージ)

成績の評価

定期試験にて成績評価します。(100%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。専門用語が多く出てきますので、事前に次回授業範囲に目を通しておいてください。

履修上の注意

本科目は（財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマーを受験する学生も、当該科目を履修しなければなりません。当該科目はその養成講座の共通科目『共通Ⅰ - 4 スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅰ、共通Ⅲ - 10 スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅱ』の内容を含みます。

テキスト

「日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅲ」（公益財団法人 日本体育協会）

※指定テキストはデザインが同じでも内容が変更になることがあるため、最新版を購入して受講すること。

オフィスアワー

金曜日

2限後の昼休み、3限終了後～（講師控え室）

金曜日しか関西医療大学に来ることが出来ないため、何かあれば上記の時間に御願います。特にアポイントメントが無ければ3限終了後は大学を出ます。また、授業のある日以外は大阪体育大学にいますので、急用の際はメールをください。

研究室・授業用E-mail

大阪体育大学

kimura18-n@ouhs.ac.jp

講義コード	1J004012
講義名	アスレティックトレーナー概論Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J1-2403ST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松本 小葉	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

松本小葉（はり師・きゅう師、アスレティックトレーナー）

目的

本講義時では、アスレティックトレーナーとして必要なスポーツと心の関係やスポーツに関わる訴訟・法律を学びます。アスリートが効果的な技術習得を行う時、最高のパフォーマンスを発揮する時、モチベーションを高める時など様々な場面でアスレティックトレーナーにも心理学的な知識が必要とされます。また近年スポーツに関わる訴訟が注目されています。ここでは過去の判例をあげ法律に触れることでアスレティックトレーナーとしてリスク管理の必要性を再認識することが目的です。2年次より開講されるアスレティックトレーナー専門科目で学ぶ内容を1年次で概説し、基礎知識の習得を目指します。

到達目標

アスレティックトレーナーになるために必要とされる基礎知識の習得、スポーツ指導者が知っておくべき法律理解。グループワークやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力の向上。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／指導力

授業計画

1. ガイダンス、スポーツと心
2. スポーツと心・スポーツにおける動機付け
3. コーチングの心理（技能の練習と指導）
4. コーチングの心理（プレイヤーの個人指導と心理的問題）
5. コーチングの心理（チームの指導と心理的問題）（コーチング評価）
6. メンタルマネジメントとは・リラクゼーション
7. イメージトレーニング
8. 集中力のトレーニング
9. 心理的コンディショニング
10. あがり、スランプの克服
11. 指導者のメンタルマネジメント
12. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任①
13. スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任②
14. スポーツと人権
15. まとめ

成績の評価

定期試験にて成績評価します。(100%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。専門用語が多く出てきますので、事前に次回授業範囲に目を通しておいてください。

履修上の注意

本科目は(財)日本スポーツ協会公認スポーツプログラマー、JATIを受験する学生も、当該科目を履修しなければなりません。当該科目はその養成講座の共通科目『共通II-2 スポーツと法、共通II-3 スポーツの心理I、共通III-6 スポーツの心理II』の内容を含みます。

テキスト

「日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目II・III」(公益財団法人 日本体育協会)

※指定テキストはデザインが同じでも内容が変更になることがあるため、最新版を購入して受講すること。

講義コード	IJ010011
講義名	コミュニケーション学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1308
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 桑原 昭吉	指定なし

目的

医療に従事する者がクライアントとの人間関係を良好に保つこと。

到達目標

人間力(信頼)・論理力(尊敬)・対話力(安心)の三要素の向上をはかる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／実践力・対応力

授業計画

1. 挨拶から始まるコミュニケーション力
2. 自己診断とコミュニケーション力
3. 環境力と聞く力のコミュニケーション力
4. 体験学と自己表現のコミュニケーション力
5. 教育学と能力開発力のコミュニケーション論
6. 言霊学と話す力のコミュニケーション論
7. 学問と説得する力のコミュニケーション論
8. 性格診断と自分を知るコミュニケーション力
9. 栄養学と豊かなイメージ力を可能にするコミュニケーション力
10. 経絡循環と魂の開発するコミュニケーション力
11. 信仰心と生きるコミュニケーション力
12. 「霊(魂)心・力・体」の思考について...宗教学
13. 「命学・卜学・仙学・医学・相学」とは...易学
14. 「望診・問診・問診・触診・脈診」の診断学...医学
15. 「祭・教・慣・造」の生活の原理とは...文化論

成績の評価

レポート提出による評定評価を行う。(100%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

なし

参考資料

「教育と魂の開発」(文芸社)・「コミュニケーション力」(岩波新書)・「東洋医学と健康診断」(東洋医学研究所)・「コミュニケーション学入門」(大修館書店)・「コミュニケーションのノウハウ・ドゥカウ」・「図解 話す力 聞く力」(PHP研究所)・「ココの相性がわかる四魂診断」(中経出版)・「論理的な話し方が面白いほど身につく本」(中経出版)

講義コード	IJ014012
講義名	スポーツと健康
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1209HS
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

目的

現代社会の発達は、快適な生活を私たちに与えてくれている反面、オーバーストレスや運動不足を引き起こしている。本講義では、ストレスや運動不足が肥満や動脈硬化などの生活習慣病の原因になること、また、日常生活や臨床の場で関わりの深い腰痛、高血圧、肥満などの成り立ちと運動との関わりについての知識を身につけることを目的とする。さらにスポーツはその実践方法によっては身体に悪影響を及ぼすことから、加齢とトレーナビリティ、スポーツ障害などを学び、基礎的な応急処置とその理論を習得する。

到達目標

健康や健康づくりを知り、実践できるようになる。
有酸素運動についての正しい知識を身につける。
スポーツによるけがと予防法を知る。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／思考力・創造力

授業計画

1. スポーツとは、スポーツと健康、レクリエーションスポーツ
2. 健康の定義、健康を学ぶ意義、個人の健康と社会
3. ヘルスプロモーション、健康づくり施策について
4. 日本における健康づくり施策について
5. 健康日本21（第二次）の説明①
6. 健康日本21（第二次）の説明②
7. 健康日本21（第二次）の説明③
8. 体力とは、行動関連体力と防衛関連体力、測れる体力
9. 体格指数、体脂肪の測定について、皮下脂肪厚法を学ぶ
10. 有酸素運動に適した運動①（ウォーキング）、有酸素性運動と運動強度、心拍数の測定
11. 有酸素運動に適した運動②（ジョギング）
12. 有酸素運動に適した運動③（エアロビックダンス）
13. 有酸素運動に適した運動④（水泳・水中運動）
14. 肥満と減量、スポーツ活動に多いケガや病気(内科)
15. スポーツ活動に多いケガや病気(外科)

成績の評価

試験（100％）にて評価。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

学んだことを自分の生活の中で実践してみる。

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

（財）健康・体力づくり事業財団が認定する「健康運動実践指導者」を受験する学生および、
（財）日本スポーツ協会公認スポーツプログラマーを受験する学生は当該科目を履修しなければならない。

・遅刻・早退は1回を $\frac{1}{3}$ 欠席として計算する。

参考資料

「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団）

「公認スポーツプログラマー専門科目テキスト」（日本体育施設協会）

オフィスアワー

木曜の12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室 igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1J047012
講義名	医学概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
科目ナンバリング	J1-2301
対象学科・学年	作業療法学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 近藤 哲哉	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

近藤哲哉 [医師]

目的

医学史、現代における医療問題、開業後に必要な医療倫理を理解する。医療倫理については、生殖医療、パターナリズムとインフォームドコンセント、難病の延命治療、終末器医療の回で講義する。

到達目標

医学、医療に歴史、問題点や意義について自分なりの考え方をもち、問題意識をもって医療に携われるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

倫理に基づく行動力／専門知識・技術

授業計画

1. 西洋医学史（1）古代から近世
2. 西洋医学史（2）19世紀から現代
3. 東洋医学史（1）中国医学史
4. 東洋医学史（2）日本医学史
5. 最先端医学
6. 電磁気と医学
7. 戦争と医療
8. 宗教と医療
9. 生殖医療
10. 難病の延命治療、終末器医療
11. 臓器移植
12. パターナリズムとインフォームドコンセント
13. 胃瘻と人工呼吸器
14. 補完代替医療
15. 人口問題と医療

成績の評価

[1] 4択問題の問題集を講義中に配ります。期末試験には、その選択肢を入れ換えたマークシート問題を出します。(80点満点)

[2] 講義中に小テストなどを行い学習に対する態度を調べることがあります。(20点満点)

以上を合計し、 点以上になれば合格です。追再試験は のみ行います。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

出欠を確認する時刻に遅刻や早退などで不在な場合、欠席として扱います。

質問がある場合、挙手がCメールか電話をして下さい。講義以外の時刻に質問がある場合は、下記にメールして下さい。

テキスト

なし。

参考資料

なし。

オフィスアワー

月曜日9:00～12:00

研究室・授業用E-mail

診療研究棟 研究室303

kondo0724538409@kansai.ac.jp

講義コード	1J065012
講義名	英語表現法Ⅰ
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1302
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 佐々木 敏光	指定なし

目的

時事英語を読むことを通して、国際的なものの見方、考え方を身につける。

到達目標

- ①時事英語のスタイルに慣れる。
- ②背景知識を身につける。
- ③英語の構文を確認しながら、本文の内容を読み取る。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／実践力・対応力

授業計画

1. ガイダンス
2. Unit 1 Doraemon to hit U.S. television this summer
3. Unit 2 Kids suggest hot springs, cuisine for foreigners
4. Unit 3 Zoo makes wild fashion statement with lion-ripped jeans
5. Unit 4 German fans bring own sofas to watch World Cup
6. Unit 5 Hand-rolled sushi gets Brazilian makeover
7. Unit 6 Japanese Brazilian teacher a student favorite
8. Unit 7 Pritzker-winning architect Ban sticks to disaster areas
9. Unit 8 Tokyo 'English Village' to offer language immersion
10. Unit 9 Farmer's efforts bearing fruit in Bhutan
11. Unit10 Simulation of texting at Shibuya crossing goes viral
12. Unit11 From Swat Valley to Nobel Peace Prize, Pakistani girl moved mountains
13. Unit12 Sign language is 'cool'
14. Unit13 App makers snap up 1st wave of Pepper robots
15. Unit14 Learn truth behind ivory, wood: African activist

成績の評価

- ①定期考査60%、復習テスト20%、提出物20%で評価する。
- ②語学は継続して学習することが大切であり、出席を重視する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

- ①宿題を課す。

②英文の構造に注意しながら、大意を読み取る努力をすること。

テキスト

「News Matters Understanding English Newspapers<New Edition>」 (南雲堂)

参考資料

講義の中で紹介する。

オフィスアワー

木曜日 12:20~12:50

研究室・授業用E-mail

1号館2階 講師控室

講義コード	IJ066012
講義名	英語表現法Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1303
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 佐々木 敏光	指定なし

目的

時事英語を読むことを通して、国際的なものの見方、考え方を身につける。

到達目標

- ①時事英語のスタイルに慣れる。
- ②背景知識を身につける。
- ③英語の構文を確認しながら、本文の内容を読み取る。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／実践力・対応力

授業計画

1. ガイダンス
2. Unit 1 研究：電子レンジ、環境も熱する
3. Unit 2 トラック、ペルーの古代ナスカの地上絵を破壊
4. Unit 3 企業、IT技術者の確保に苦闘
5. Unit 4 世界の大手自動車メーカー、電気自動車の発売へ加速
6. Unit 5 大分の薬剤師、飲泉のガイドブックを作成
7. Unit 6 SpaceXのロケット発射、スポーツカーを宇宙に
8. Unit 7 単身世帯、2040年に40%に増加見通し
9. Unit 8 政府、学校へのEdTech実施を計画
10. Unit 9 大学、低収入家庭の子ども向け食堂運営を支援
11. Unit10 チュニジアの女子学生、制服に反旗
12. Unit11 入試に英語を加える学校が増加
13. Unit12 国際機関、海底地形に日本語名を認める
14. Unit13 語学学校、アジアの労働者を日本に向けるねらい
15. Unit14 買い物アプリ、食品ロスを減らすため試験運用

成績の評価

- ①定期考査60%、復習テスト20%、提出物20%で評価する。
- ②語学は継続して学習することが大切であり、出席を重視する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

- ①宿題を課す。

②英文の構造に注意しながら、大意を読み取る努力をすること。

テキスト

「Meet the World English through Newspapers 2019」 (成美堂)

参考資料

講義の中で紹介する。

オフィスアワー

木曜日 12:20～12:50

研究室・授業用E-mail

1号館2階 講師控室

講義コード	IJ139012
講義名	国語表現法
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1301
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南山 かおり	指定なし

目的

この講義は、コミュニケーション手段の一つとしての「文章表現」について論じる。文章による伝達は、今や現代社会において、大きな比重を占めるようになってきた。私たちは、日常生活の様々な場面で、日本語によって文章を綴ることを避けることはできない。それは、医療の現場においても、また同じである。カルテや紹介状の作成等、現場では常に正確で明瞭な文書の作成を要求されるだろう。よって、講義の中では、自らの意図するところを的確に表現し、よりよい文章を書くためには何が必要か、身近な事例を通して考えてゆくことにする。

到達目標

的確な言語表現を実現するため、まずは、その表現媒体である「日本語」についての知識を深め、興味を喚起することを第一の目標とする。さらにその上で、本当によい文章とは何か、正確に伝えるには何が必要か、について、自身の基準を持てるようになること、それが第二の目標である。このことによって、実際の表現の場においても、常に慎重に自らの日本語を見つめ、より深いコミュニケーションを実現する力が身につくものとする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／実践力・対応力

授業計画

1. ガイダンス — 授業の概要と成績評価について
2. Ⅰ. ことばに敏感になる — 1. 語感をつかむ
3. Ⅰ. ことばに敏感になる — 2. 「思う」と「考える」
4. Ⅰ. ことばに敏感になる — 3. 「ある」と「いる」
5. Ⅰ. ことばに敏感になる — 4. 語源を意識する
6. Ⅰ. ことばに敏感になる — 5. 派生語に注目する
7. Ⅰ. ことばに敏感になる — 6. 漢字と漢語
8. Ⅰ. ことばに敏感になる — 7. 漢語の特徴
9. Ⅱ. 文の構造を考える — 1. 「ハ」と「ガ」はどう違うか
10. Ⅱ. 文の構造を考える — 2. 「ハ」の働き
11. Ⅱ. 文の構造を考える — 3. 「ガ」の働き
12. Ⅱ. 文の構造を考える — 4. 「ハ」の文、「ガ」の文
13. Ⅲ. ことばは変化する — 1. ことばの"揺れ"を観察する
14. Ⅲ. ことばは変化する — 2. 「ら抜きことば」の問題
15. Ⅲ. ことばは変化する — 3. 情報の使い方

成績の評価

レポート提出50%・レポート内容40%・授業への取り組み度10%（授業中の小レポートにより評価）

※詳細については、授業の中で伝える。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

授業中に、レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

講義中に紹介した参考図書や、その他の日本語に関する本を読む等して、普段から「日本語に対する興味・理解を深める」こと。その上で、日常のコミュニケーションの場においても、自身の言語表現に常に気を配るよう努めること。

テキスト

毎回、授業時にプリントを配布。

参考資料

- | | |
|---------------|--------|
| 「日本語練習帳」 | （岩波新書） |
| 「日本語はおもしろい」 | （岩波新書） |
| 「私家版 日本語文法」 | （新潮文庫） |
| 「日本語はなぜ変化するか」 | （笠間書院） |
| 「全国アホ・バカ分布考」 | （新潮文庫） |

オフィスアワー

火曜日 12:30～13:00

講義コード	1J177011
講義名	心理学
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1203H
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀 節子	指定なし

目的

「人間とはどのような生命体であり、いかに感じ、行動し、生きているのか」という多岐にわたる心理学のテーマの中から、本講義では特に「感情」と「個性」をとりあげることによって、人間理解を深め、広い精神を養っていくことを目指す。

到達目標

人間理解をとおして、自らも周りの人もよくしていこうとする意欲を身につけること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／思考力・創造力

授業計画

- I 「自らを知る」 & 「他者を知る」
- II 主な心理学者の理論 (フロイト&アドラー)
- II 主な心理学者の理論 (ユング、その他)
- II 主な心理学者の理論 (マズロー、その他)
- III 感情の心理学 (感情論の略史)
- III 感情の心理学 (感情の科学)
- III 感情の心理学 (情動と身体反応)
- IV 痛みの心理学
- V 運動指導の心理学的基礎 (感情と行動の適応的变化)
- V 運動指導の心理学的基礎 (個別カウンセリング方法)
- VI 遺伝と環境 (学習と記憶)
- VI 遺伝と環境 (本能の役割)
- VII コミュニケーション論 (親子の心理学)
- VII コミュニケーション論 (イメージ論&交流分析)
- VIII 古人(いにしえびと)の人間観と528Hz

成績の評価

定期試験(70%)および質疑応答における主体性や集中度(30%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験、レポートの解説を学生から希望があるときに実施する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。
普段から、自らの人格に対する純な向上心を培っておくことが求められる。

履修上の注意

「健康運動実践指導者」の指定科目になっているので留意すること。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考資料

講義の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

金曜日 16時から17時

研究室・授業用E-mail

管理棟 2階 204研究室・skame@kansai.ac.jp

講義コード	IJ187022
講義名	人体の機能 I
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J1-2004T
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高岸 美和	指定なし

目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問である。この学問領域は基礎医学の中でも特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域である。柔道整復師においてもその重要性にかわりはない。一般に生理学は、動物性機能と植物性機能に大別することができるが、「人体の機能 I」では神経系・運動器系・感覚器系を中心とする動物性機能の正常状態の機能について学習する。

到達目標

人体の正常機能を理解することで、今後学ぶ異常 (病気) の状態が理解できるよう知識を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. 生理学の基礎 1
2. 生理学の基礎 2
3. 生理学の基礎 3
4. 生理学の基礎 4
5. 生理学の基礎 5
6. 生理学の基礎 6
7. 神経(神経の基本的機能) 1
8. 神経(神経の基本的機能) 2
9. 神経(興奮の伝導と伝達) 1
10. 神経(興奮の伝導と伝達) 2
11. 神経(末梢神経系) 1
12. 神経(末梢神経系) 2
13. 神経(末梢神経系) 3
14. 神経(自律神経系) 1
15. 神経(自律神経系) 2
16. 神経(自律神経系) 3
17. 神経(姿勢と運動の調節) 1
18. 神経(姿勢と運動の調節) 2
19. 神経(中枢神経系) 1
20. 神経(中枢神経系) 2
21. 神経(中枢神経系) 3
22. 神経(中枢神経系) 4

23. 筋(筋肉の種類と特徴)
24. 筋(骨格筋収縮のしくみ) 1
25. 筋(骨格筋収縮のしくみ) 2
26. 筋(筋収縮のエネルギー)
27. 筋(長さや張力との関係)
28. 筋(心筋,平滑筋)
29. 感覚(感覚の種類)
30. 感覚 (特殊感覚)

成績の評価

定期試験 (100%) により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

予習：教科書の速読

復習：教科書の熟読と講義内容の理解及び暗記

履修上の注意

遅刻3回につき1回の欠席とする。

「トレーニング指導者 (JATI)」の指定科目である。

テキスト

「生理学 改訂第3版」(南江堂)

随時プリントを配布する。

オフィスアワー

前期 : 月曜日 (16:40 ~ 18:00)

後期 : 木曜日 (16:40 ~ 18:00)

研究室・授業用E-mail

研究室 : 診療・研究棟4階 415研究室

E-mail : takagishi@kansai.ac.jp

講義コード	IJ188012
講義名	人体の機能Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J1-2005T
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高岸 美和	指定なし

目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問である。「人体の機能Ⅰ」の授業科目で紹介したように、生理学は医学のベースとなる科目で、コメディカルに共通して重要な学問領域である。この生理学は動物性機能と植物性機能に大別することができるが、「人体の機能Ⅱ」では植物性機能、つまり、循環器系、呼吸器系、消化器系、排泄器系、生殖器系、内分泌系の機能について学習する。

到達目標

人体の正常機能を理解することで、今後学ぶ異常（病気）の状態が理解できるよう知識を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. 血液（血液の組成、血球の働き）
2. 血液（血液凝固、血液型）
3. 循環（循環中枢、心臓の働き）
4. 循環（循環の調節、血圧）
5. 呼吸（呼吸運動とその調節）
6. 呼吸（ガス交換とガス運搬）
7. 消化と吸収（消化器系と消化酵素）
8. 消化と吸収（消化管ホルモン、肝臓の働き）
9. 栄養と代謝と体温（基礎代謝、体温調節の仕組み）
10. 排泄（尿の生成）
11. 排泄（体液の調節、排尿と蓄尿）
12. 内分泌（内分泌腺とホルモンの一般的性質）
13. 内分泌（ホルモンの種類と作用）
14. 生殖（生殖器機能、性ホルモン）
15. 骨の生理学（骨の形成と代謝）

成績の評価

定期試験（100％）により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

予習：教科書の速読

復習：教科書の熟読と講義内容の理解及び暗記

履修上の注意

遅刻3回につき1回の欠席とする。

「トレーニング指導者（JATI）」の指定科目である。

テキスト

「生理学 改訂第3版」（南江堂）

随時プリントを配布する。

オフィスアワー

前期：月曜日（16：40～18：00）

後期：木曜日（16：40～18：00）

研究室・授業用E-mail

研究室：診療・研究棟4階 415研究室

E-mail：takagishi@kansai.ac.jp

講義コード	1J189011
講義名	人体の機能実習
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J1-2006
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高岸 美和	指定なし

目的

「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」で学習した内容をさらに深く理解することを目的とする。

到達目標

「人体の機能Ⅰ・Ⅱ」で学習したもののなかからいくつかの分野について実際に機器などを用いて計測することで、人体の正常機能についての体験的理解が得られるようにする。また、実習レポートを作成することで、実習で得た現象に対して、なぜこのようなデータが得られるのだろうか？という点について、基礎科学的な考察を能動的・主体的に行うことで科学的な思考の基礎的な素養を身につけられるようにする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／実践力・対応力

授業計画

1. 実習講義 総論：生理学実習の意義
2. 実習講義 各種装置の理解とその操作方法
3. 実習講義 皮膚感覚：感覚点と受容器電位、感覚の伝導路
4. 実習講義 皮膚感覚：痛点と触圧点・温点・冷点とその受容器と受容体についてと実習装置の使用法
5. 実習① 皮膚感覚：感覚点の測定
6. 実習② 皮膚感覚：二点弁別閾の測定
7. 実習講義 データの扱い方・レポートの書き方
8. 実習講義 視覚の伝導路とその仕組み
9. 実習③ 網膜における盲点の位置測定
10. 実習講義 呼吸運動と肺気量分画 1
11. 実習講義 呼吸運動と肺気量分画 2
12. 実習講義 実習装置の使用法
13. 実習④ 正常呼吸運動と肺気量分画測定
14. 実習⑤ 擬似的異常呼吸運動（閉塞性・拘束性肺疾患）と肺気量分画測定
15. 実習全体をとおしてのまとめ

成績の評価

定期試験（100％）により評価する。但し、この試験は実習後のレポートを全て提出することを受験要件とし、レポートで合格していなければ、本試験での合格の可能性はかなり低くなると心得ておくこと。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。
レポート返却時に総評を行う。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。
予習：人体の機能Ⅰ・Ⅱで学習した内容の事前確認
復習：講義内容の理解及び暗記と実習レポートの作成

テキスト

「生理学 改訂第3版」（南江堂）
随時プリントを配布する。

オフィスアワー

前期：月曜日（16：40～18：00）
後期：木曜日（16：40～18：00）

研究室・授業用E-mail

研究室：診療・研究棟4階 415研究室
E-mail：takagishi@kansai.ac.jp

講義コード	IJ194022
講義名	人体の構造 I
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J1-2001HT
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

目的

ヒトの体は解剖学的な構造と多くの生理機能から成り立っている。本講座は前期に開講されることから、人体の正常な構造のうち、特に細胞、組織および運動器系について学び、人体に対する知識を深め、医学、柔道整復学、健康スポーツ学を学ぶ上での基礎とする。

到達目標

人体を構成する細胞や組織とともに、正常な人体の骨、関節、筋についての知識を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. ガイダンス 人体解剖学概説
2. 細胞および組織
3. 人体の区分と発生
4. 骨学 (脊柱) ①
5. 骨学 (脊柱) ②
6. 骨学 (胸郭)
7. 骨学 (上肢) ①
8. 骨学 (上肢) ②
9. 骨学 (下肢) ①
10. 骨学 (下肢) ②
11. 骨学 (頭蓋) ①
12. 骨学 (頭蓋) ②
13. 関節①
14. 関節②
15. 関節③
16. 関節④
17. 筋学 (総論)
18. 筋学 (頭頸部) ①
19. 筋学 (頭頸部) ②
20. 筋学 (胸部)
21. 筋学 (腹部)
22. 筋学 (背部)
23. 筋学 (上肢) ①
24. 筋学 (上肢) ②
25. 筋学 (上肢) ③

- 26. 筋学 (上肢) ④
- 27. 筋学 (下肢) ①
- 28. 筋学 (下肢) ②
- 29. 筋学 (下肢) ③
- 30. 筋学 (下肢) ④

成績の評価

中間試験 (50%)、期末試験 (50%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

解剖学の名称になれることが大切なので、授業の前に教科書を読んで予習しておくこと。
授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

「健康運動実践指導者」、「トレーニング指導者 (JATI)」の資格取得に関係する科目である。
遅刻は1/3欠席として計算する。

テキスト

「解剖学」 (医歯薬出版)

参考資料

「イラスト解剖学」 (中外医学社)

オフィスアワー

木曜の12:30~13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室 igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1J195022
講義名	人体の構造Ⅱ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J1-2002H
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

目的

系統解剖学的区分に基づき、器管の形態や構造の特徴について理解できるようにテキストとオリジナル資料で講義します。人体の形態や構造の特徴について受講生が体系的かつ正確に理解することを目的とします。

到達目標

下記講義計画の内容について正確な理解を目指します。また講義後も自立学習が出来ることを目指します。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. 受講ガイダンス・総論
2. 消化器系①
3. 消化器系②
4. 消化器系③
5. 消化器系④
6. 消化器系⑤
7. 消化器系⑥
8. 呼吸器系①
9. 呼吸器系②
10. 泌尿器系①
11. 泌尿器系②
12. 生殖器系①
13. 生殖器系②
14. 内分泌系①
15. 内分泌系②
16. 循環器系①
17. 循環器系②
18. 循環器系③
19. 循環器系④
20. 循環器系⑤
21. 神経系①
22. 神経系②
23. 神経系③
24. 神経系④

- 25. 神経系⑤
- 26. 神経系⑥
- 27. 神経系⑦
- 28. 感覚器系①
- 29. 感覚器系②
- 30. 感覚器系③

成績の評価

筆記試験(100%)で評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

解剖学は人体の構造に関する知識を学習する科目であるため、各自、参考図書や模型、視聴覚教材を利用した予習と復習が必要です。予習では必ずテキストを一読して用語の確認、復習では指導したノートの作り方に則り講義内容を整理しましょう。

履修上の注意

「健康運動実践指導者」の指定科目になっている。

テキスト

「解剖学」(医歯薬出版)

資料としてプリントを配布します。

参考資料

「日本人体解剖学」(南山堂)

「プロメテウス解剖学 コア アトラス」(医学書院)

オフィスアワー

火・水・木曜日 12:10~12:40

研究室・授業用E-mail

診療研究棟4階407・tomura@kansai.ac.jp

講義コード	IJ196021
講義名	人体の構造実習
講義開講時期	通年
講義区分	実習
基準単位数	2
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J1-2003
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

目的

医学、柔道整復学や健康スポーツ学を学ぶ上で必須である解剖学の知識をさらに深く理解し、今後学ぶ様々な教科の学習および臨床や健康スポーツ指導に役立てられることを目的とする。

到達目標

ヒトの骨格標本、筋模型、全身模型、顕微鏡を用いた学習を行うとともに、実際の人体を用いた生体観察を行い、人体の構造Ⅰ、Ⅱで学んだ解剖学の知識を立体的に理解することを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／実践力・対応力

授業計画

1. 骨学実習の説明と体幹の骨（脊柱と胸郭）①
2. 体幹の骨（脊柱と胸郭）②
3. 上肢の骨①
4. 上肢の骨②
5. 下肢の骨①
6. 下肢の骨②
7. 頭蓋骨①
8. 頭蓋骨②
9. 骨学実習試験
10. 頭頸部の筋
11. 腹部、背部の筋
12. 上肢の筋①
13. 上肢の筋②
14. 下肢の筋①
15. 下肢の筋②
16. 骨の体表解剖①
17. 骨の体表解剖②
18. 筋の体表解剖①
19. 筋の体表解剖②
20. 循環器系の体表解剖①
21. 循環器系の体表解剖②
22. 神経系の体表解剖①
23. 神経系の体表解剖②
24. 体表解剖のまとめの授業

25. 筋学・体表解剖学試験
26. 顕微鏡実習（消化器系）
27. 顕微鏡実習（呼吸器系）
28. 顕微鏡実習（生殖器系）
29. 顕微鏡実習（内分泌系）
30. まとめの授業

成績の評価

課題（スケッチなど）の合格を成績評価の前提条件とし、骨学実習試験50%、筋学・体表解剖学試験35%、組織学試験15%にて評価。なお、課題が未提出であったり不合格のままであった場合の成績評価は不合格となる。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートを開示する。

自己学習

人体の構造Ⅰ、Ⅱの内容をもう一度確認し、理解しておくこと。
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

「柔道整復師」及び「健康運動実践指導者」の資格取得に関係する科目である。
遅刻は1/3欠席として計算する。

テキスト

「解剖学」（医歯薬出版）
「プロメテウス解剖学コアアトラス」（医学書院）

参考資料

特になし

オフィスアワー

木曜の12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室 igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1J210011
講義名	整復学総論
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	基礎・臨床整復学
科目ナンバリング	J1-3001
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 尾原 弘恭	指定なし

目的

柔道整復学の基礎、柔道整復の成り立ちを理解し、基礎・臨床整復学や整復実技を学習していく上で必要な理論を学習する。
 なお、当該科目は「キャリア教育科目」に指定されている。
 本学学生が、専門教育を学び資格を習得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身につくように支援する。

到達目標

柔道整復術の成り立ちを理解し、整復学各論等の専門教育科目を学習していく上で必要となる基礎的な知識を習得すること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. ガイダンス
2. 柔道整復師の歴史と現状
3. 柔道整復術とは
4. 人体に加わる力・損傷時に加わる力
5. 痛みの基礎
6. 骨の損傷①
7. 骨の損傷②
8. 骨の損傷③
9. 骨の損傷④
10. 骨の損傷⑤
11. 関節の構造
12. 関節の損傷①
13. 関節の損傷②
14. 関節の損傷③
15. 関節の損傷（脱臼）①
16. 関節の損傷（脱臼）②
17. 筋の損傷①
18. 筋の損傷②
19. 腱の損傷①
20. 腱の損傷②
21. 神経の損傷

- 22. 診察
- 23. 治療法①（整復法）
- 24. 治療法②（整復法）
- 25. 治療法③（固定法）
- 26. 治療法④（後療法）
- 27. 治療法⑤（後療法）
- 28. 治療法⑥（指導管理）
- 29. 外傷予防①
- 30. 外傷予防②

成績の評価

筆記試験（定期試験期間中に実施：70%）、課題点（授業内での小テストやレポートの提出：30%）により総合評価して判定する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「柔道整復学 理論編」（南江堂）

参考資料

「解剖学」（医歯薬出版）

「運動学」（医歯薬出版）

オフィスアワー

前期：水曜日13:00～17:00

後期：木曜日13:00～17:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟3階310研究室

ohara@kansai.ac.jp

講義コード	1J221012
講義名	生涯スポーツⅠ
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1207HST
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

五十嵐 純 相澤 慎太

目的

慢性的な運動不足による体力の低下は身体にゆがみを引き起こし、様々な疾病の原因となることが知られている。生涯スポーツⅠではこれらの疾病の予防・改善に有効なスポーツ・運動を適時実践し、生活の中に意識的に運動を取り入れて行けるようにすることを目的とする。

到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／実践力・対応力

授業計画

- 【合同授業】（五十嵐、相澤）
ガイダンス 筆記用具を用意し、指定された教室に私服で集合し、選択種目を決定する。
第2週から1班：軽スポーツ・運動ゲームコース、2班スポーツコースとに分かれて実践する。
 - 体力測定の実践①(筋力、筋持久力、柔軟性など)
 - 体力測定の実践②(筋力、筋持久力、柔軟性など)
 - 体力測定の実践③（身体組成、形態の測定）
 - 体力測定の評価
 - 1班：運動ゲーム
2班：バドミントンの実践①
 - 1班：フライングディスク①
2班：バドミントンの実践②
 - 1班：フライングディスク②
2班：バドミントンの実践③
 - 1班：フライングディスク③
2班：バドミントンの実践④
 - 1班：フライングディスク④
2班：卓球の実践①
 - 1班：グラウンドゴルフ①
2班：卓球の実践②
 - 1班：グラウンドゴルフ②
2班：卓球の実践③
 - 1班：ミニバレー①
2班：ソフトボールの実践①
 - 1班：ミニバレー②
2班：ソフトボールの実践②
 - 1班：ミニバレー③
2班：ソフトボールの実践③
- ※ 天候により、授業内容を変更し体育館を使用することがある。

成績の評価

50

50%

学習到達度 %・参加態度 にて評価。
定期試験、レポート等に対するフィードバック
成績発表後、採点後の定期試験答案、レポートなどを開示する。
自己学習
予習はいらないが、復習として、動きの再確認を行うこと。 授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。
履修上の注意
<ul style="list-style-type: none"> ・「健康運動実践指導者」、「スポーツプログラマー」、「トレーニング指導者 (JATI)」を受験する学生は、当該科目は必須である。 ・遅刻・早退は1回を1/3欠席として計算する。
参考資料
「健康運動実践指導者用テキスト」 (健康・体力づくり事業財団)
オフィスアワー
木曜の12:30~13:00
研究室・授業用E-mail
診療・研究棟4階 401研究室 igarashi@kansai.ac.jp (五十嵐)

講義コード	1J222012
講義名	生涯スポーツII
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1208HS
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

五十嵐 純、相澤 慎太、渡辺 俊哉

目的

筋力やバランス能力の低下が進むと行動が制限されるばかりでなく、転倒による骨折の可能性、ひいては歩行困難を来す可能性が高まってくる。生涯スポーツIIでは、体力の維持、増進に有効である様々なトレーニング、体操およびスポーツの実践を通して、心身の良好な状態を維持する知識と技能を学ぶとともに、スポーツの楽しみ方を身につける。

到達目標

それぞれのスポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／実践力・対応力

授業計画

- | | |
|---|-------------------------|
| 1. 【合同授業】（五十嵐、相澤、渡辺）
ガイダンス 筆記用具を用意し、指定された教室に私服で集合。（第2週から選択する種目を決めるので、必ず出席すること。）
【補強運動・スポーツコース】
（担当：五十嵐、相澤） | 【太極拳】
（担当：渡辺） |
| 2. 体操 | 2. 太極拳の基本 |
| 3. 補強運動の実践①（器具を使用しないトレーニング） | 3. 太極拳の基本 |
| 4. 補強運動の実践②（マシンを使用するトレーニング） | 4. 太極拳の基本 |
| 5. 補強運動の実践③（フリーウェイトを使用するトレーニング） | 5. 動作名：起 勢（チーシー） |
| 6. 補強運動の実践④（アジリティートレーニング） | 6. 動作名：野馬分鬚（イマフインゾン） |
| 7. 補強運動の実践⑤（サーキットトレーニング） | 7. 動作名：倒巻肱（ダバジインゴ） |
| 8. 補強運動の実践⑥（トレーニングプログラムの実践） | 8. 動作名：左攬雀尾（ズオランチュウエイ） |
| 9. 卓球の基礎 ラケットの選択とボール遊び | 9. 動作名：左攬雀尾（ズオランチュウエイ） |
| 10. フォアハンド、バックハンドで返球 | 10. 動作名：右攬雀尾（ヨウランチュウエイ） |
| 11. フォアハンド、バックハンドのツツキ | 11. 動作名：右攬雀尾（ヨウランチュウエイ） |
| 12. フォアハンド、バックハンドストローク | 12. 動作名：単 鞭（タンビエン） |
| 13. いろいろなサーブ、スマッシュの説明 | 13. 動作名：十字手（シースーショウ） |
| 14. ゲームの説明と実践 | 14. 動作名：収 勢（ショウセイ） |
| 15. 卓球の実技試験 | 15. 総まとめ |

成績の評価

学習到達度50%・参加態度50%にて評価。
定期試験、レポート等に対するフィードバック
成績発表後、採点後の定期試験答案、レポート等を開示する。
自己学習
予習はいらないが、復習として、動きの再確認を行うこと。 授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。
履修上の注意
<ul style="list-style-type: none"> ・「健康運動実践指導者」、「スポーツプログラマー」を受験する学生は、当該科目は必須である。 ・遅刻・早退は1回を1/3欠席として計算する。
参考資料
「健康運動実践指導者用テキスト」（健康・体力づくり事業財団） 「公認スポーツプログラマー専門科目テキスト」（体育施設協会）
オフィスアワー
木曜の12:30～13:00
研究室・授業用E-mail
診療・研究棟4階 401研究室 igarashi@kansai.ac.jp（五十嵐）

講義コード	1J226012
講義名	生命のしくみ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1102
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 青野 由紀	指定なし

目的

生命のしくみ（生物学）に関する知識は医学系科目の基礎となり、医療を志す者にとって必須である。

生物学は基本的には生物の共通性・多様性について学習することである。共通性とは分子、細胞、エネルギー、自己複製などであり、多様性とは種、生態系などである。これらの共通性・多様性の学習を通じて自然科学に対する考え、探求する能力などを育成し、また生物学に関する基本的な概念を理解することで科学的な自然観を養う。

到達目標

1. 生命活動に関する基本的な内容を理解する。
2. 細胞に関する知識・理解を深める。
3. 分子生物学に関する基本的な内容を理解する。
4. 身近な問題に関して科学的な考えができるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／思考力・創造力

授業計画

1. 細胞の機能と構造
2. 分裂・増殖
3. 細胞死
4. 細胞内外の情報伝達
5. 遺伝子・DNA
6. 遺伝情報の流れ
7. 遺伝子発現
8. 分子生物学の応用（1）PCR法
9. 分子生物学の応用（2）遺伝子組み換え
10. 再生医療
11. 生体防御
12. 自然免疫
13. 獲得免疫
14. 生物と環境
15. まとめ

成績の評価

筆記試験での評価とする。（100%）

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。
授業前に1度は前回の授業ノートを見直しておくこと。

テキスト

「スクエア最新図説生物」（第一学習社）

参考資料

「Essential細胞生物学」（南光堂）

オフィスアワー

授業後

研究室・授業用E-mail

kasahara@kansai.ac.jp

講義コード	1J229012
講義名	生命の化学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1104
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩橋 秀夫	指定なし

目的

生体を構成する物質の基礎知識の修得を通して、ヘルスプロモーション整復学を学ぶための基礎知識及び思考力の修得を目指す。

到達目標

生体を構成する物質の基礎知識の修得を通して、ヘルスプロモーション整復学を学ぶための基礎知識及び思考力を修得する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／思考力・創造力

授業計画

1. 水
2. 生体膜と浸透圧
3. 化学反応と酵素
4. 酸・塩基平衡と緩衝作用
5. 糖質 (1)
6. 糖質 (2)
7. 脂質 (1)
8. 脂質 (2)
9. 蛋白質・アミノ酸 (1)
10. 蛋白質・アミノ酸 (2)
11. 核酸 (1)
12. 核酸 (2)
13. 消化・吸収
14. 生体とエネルギー
15. 生体の恒常性の維持

成績の評価

小テスト (30%)、定期試験 (70%)

自己学習

授業1コマにつき2コマ (180分) 相当の予習と復習を行うこと。参考資料をもとに次回講義予定内容について予習し、授業中に課した演習問題を重点に復習しておくこと。

テキスト

配布資料による。

参考資料

「バイオサイエンス化学」(東京化学同人)
「ライフサイエンス系の基礎物理化学」(東京化学同人)
「生命科学のための有機化学II」(東京大学出版会)

オフィスアワー

月曜日・金曜日(12時20分～13時10分)

研究室・授業用E-mail

410研究室 iwahashi@kansai.ac.jp

講義コード	1J230012
講義名	生命倫理
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1201
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 武田 眞太郎	指定なし

目的

第二次世界大戦中のナチス・ドイツの生体実験に対する「ニュールンベルグ綱領」に端を発した生命倫理の基本姿勢、その後の近代医学の急激な進歩に伴って表面化してきた人間の生と死をめぐる諸問題を俎上に載せ、すべての人の基本的権利としての生存権、生活権、健康権とともに、医療の現場における患者の基本的権利がいかに保障されるべきかについて考究する。

到達目標

医療の担い手の基本的な資質である「患者の権利を尊び守る態度」の涵養を図る。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／倫理に基づく行動力

授業計画

1. わが国における医療の基本理念 — 「医療法」をめぐって
2. 世界保健憲章・世界人権宣言・経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約にみられる「健康権」の概念
3. アメリカおよびナチス・ドイツにみられた優生思想の社会的展開
4. 生命倫理の展開 — 医療の担い手の職業倫理と患者の権利
5. 先進医療と「生老病死」の場面での倫理
6. 「ベルモント三原則」「ヘルシンキ宣言」と「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」
7. インフォームド・コンセントと患者の自己決定権
8. 生殖補助医療の現状
9. 生殖補助医療と生まれる子どもの権利
10. 遺伝子診断・治療をめぐって
11. 脳死と臓器移植
12. 尊厳死をめぐって
13. 福祉の基本的な在り方と現状
14. 経済発展と生命倫理 — 事例からみた企業の社会的責任
15. 総括

成績の評価

定期試験（85%）および毎回提出のミニレポート（15%）により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

プリント配布による。

参考資料

関係個所で、適宜紹介する。

オフィスアワー

希望があれば、事前に予約すること。

講義コード	1J310012
講義名	物質と自然のしくみ
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1103
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 中村 正信	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

中村正信

目的

複雑な現代人の生活も自然現象の中で営まれている。医療従事者による身体ケアの場面や検査・治療・処置の場面においても、自然の法則とは無関係ではない。そこで人体に関する物理の応用を具体例として、物質と自然の法則を学ぶ。その過程で、細かい事項を暗記するのではなく、前提から導き出す結論に大きな誤りが起こらない、見方と考え方を身につける。

到達目標

この授業で使用するテキストは、医療系の広範囲の学生を対象としていて、さまざま話題が展開されている。一方で高校で学ぶ物理、化学、生物、数学の内容との接続が配慮されている。しかもそれらの知識がなくてもある程度理解できるようになっている。授業では、できるだけ身の回りの事象も題材に取り上げることにより、身近な現象を見る目と科学する心を持つことを目指す。合わせて、専門科目で具体例を学んだ場合にその内容が理解できるような基礎力を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／思考力・創造力

授業計画

01. はじめに、狙い、進め方
02. 物理量と人体
03. 力と身体のバランス
04. 力と身体のバランス
05. 運動モデルとスポーツ
06. 運動モデルとスポーツ
07. 熱とエネルギー代謝
08. 熱とエネルギー代謝
09. 圧力と循環・呼吸
10. 音と聴覚・発声
11. 光と視覚
12. 電磁気と神経・興奮状態
13. 電磁気と神経・興奮状態
14. 波と画像診断
15. 放射線と人体

成績の評価

試験約67%・授業中のミニレポート約22%・授業への取り組み度約11%

自己学習

授業1コマにつき2コマ(180分)相当の予習と復習を行うこと。高校で物理を履修していない学生は、テキストにあらかじめ目を通し、特に物理量の名称や記号・単位に注意すること。学習においては、わからない箇所をノートに記入し、「どこまでわかって、どこがわからないか」を見直すことを薦める。

テキスト

「医療系のための物理学入門」(講談社)

参考資料

学生毎に状況が違うので直接担当教員に相談するのが良い。

例としては次のような本がある。

「まるわかり!基礎物理」(南山堂)

「自然科学の基礎としての物理学」(学術図書出版社)

オフィスアワー

水曜日(17:00~18:00)

なお希望者は予めE-mail等で連絡をとり場所を確認してください。

研究室・授業用E-mail

E-mail nakamura@kansai.ac.jp

講義コード	1J358011
講義名	臨床心理学概論
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	健康・スポーツ科学
科目ナンバリング	J1-2401
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 伊東 弘美	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

伊東 弘美 [臨床心理士、公認心理師]

目的

対人援助職の基本となる対人関係理解と受容的態度について学ぶ。

到達目標

臨床場面における患者－援助者関係を常に念頭に置き、対人関係を多角的な視点から捉えられるようになることを目指す。医療、福祉、教育現場での臨床実践を活かした講義・実習を通して、理論学習よりも自他の理解・気づきに重きを置く。コミュニケーション及び心理検査については、グループワークや実習を通して理解を深める。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

- 1 オリエンテーション：対人援助職とは
- 2 心理的適応・不適応のメカニズム 1) 葛藤仮説
- 3 心理的適応・不適応のメカニズム 2) 精神分析理論
- 4 心理的適応・不適応のメカニズム 3) 防衛機制
- 5 コミュニケーションの定義・分類
- 6 対人援助職のコミュニケーションスキル
- 7 コミュニケーションの障害と病理
- 8 対人関係における知識・理解
- 9 対人関係における共感的理解
- 10 心理検査法
- 11 心理検査法実習
- 12 無意識とコンプレクス
- 13 心理療法
- 14 患者役割行動の心理と治療者
- 15 まとめ

成績の評価

試験は行わず期末レポートにより評価する。(100%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポートの解説を実施する。

自己学習

授業1コマあたり0.5コマ(45分)の自己学習が必要。特に復習を重視すること。

テキスト

授業時間内にプリント配布。

参考資料

「ナースのための心理学」(金子書房)

「心とかかわる臨床心理」(ナカニシヤ出版)

オフィスアワー

月曜日 16:20~16:50

講義コード	1J416011
講義名	科学の基礎
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1101
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 井本 泰彦	指定なし
非常勤	青野 由紀	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

井本 泰彦、青野 由紀

目的

生物・物理・化学の各分野の基礎項目について十分な知識を持つことにより、専門科目の学習の基礎を確実なものとする。生物分野では、科学思想および科学の方法について教授し、生物学における基礎的な内容を確認する。物理・化学分野においては、高等学校で学ぶ重要項目の理解を深め専門分野の活動に関係する物理現象を系統的に理解する能力と物質とその変化を化学的に理解する能力を養う。したがって高等学校で履修していない科目がある学生や、理解不足であった学生の受講を望む。

到達目標

1. 専門科目の学習に必要な生物学の基礎が理解できる。
2. 専門科目の学習に必要な物理学の基礎が理解できる。
3. 専門科目の学習に必要な化学の基礎が理解できる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／思考力・創造力

授業計画

1. 生物学の基礎（科学的思想、生物の共通性・多様性など）（青野）
2. 細胞（原核細胞、真核細胞、ウイルス）（青野）
3. 代謝（酵素、同化、呼吸など）（青野）
4. 遺伝子・DNA（遺伝情報の流れ、バイオテクノロジー）（青野）
5. 免疫（生体防御、自然免疫、獲得免疫）（青野）
6. 基本的な物理量と単位（質量、加速度、力、重力）（井本）
7. 力の働き（ベクトル、摩擦、仕事、モーメント）（井本）
8. 圧力（大気圧、血圧、単位、ボイルの法則、分圧）（井本）
9. 波の性質（ドップラー効果、超音波）、放射線の基礎（井本）
10. 電気（オームの法則、電力、感電、測定機器と人体）（井本）
11. 周期表と身近な元素、原子の構造、イオン（井本）
12. 分子量、式量、物質量、溶液の濃度（井本）
13. 化学変化と化学反応式、酸と塩基、pH（井本）
14. 酸化と還元、身近な無機化合物（井本）
15. 有機化合物（石油、油脂、炭水化物、タンパク質）（井本）

成績の評価

宿題の提出を「授業への取り組み度」とする。
各分野とも評価は、定期試験70%、授業への取り組み度を30%とし、その合計で評価する。
3分野の評価の平均を講義の評価とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「スクエア最新図説生物」（第一学習社）

オフィスアワー

授業終了後

講義コード	1J417011
講義名	統計学の基礎
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1105
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整備学科・1年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

目的

統計学の基礎について理解できるように講義します。
 受講生が統計学の基礎、特に記述統計学を学ぶことで、将来の推測統計学の学習に備えることを目的とします。
 さらに、統計学に基づいた医学研究における研究デザインの理解を目的とします。

到達目標

下記講義計画の内容について正確な理解を目指します。また講義後も自立学習が出来ることを目指します。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／実践力・対応力

授業計画

1. 統計学とは（総論，社会における統計学）
2. 統計学とは（医学における統計学）
3. 母集団と標本
4. データの種類
5. 記述統計学
6. 度数分布とヒストグラム
7. 最頻値・中央値・平均値
8. 分布
9. 分散と標準偏差①
10. 分散と標準偏差②
11. 仮説検定
12. 区間推定
13. 統計学に基づいた医学研究における研究デザイン
14. 研究論文から読み解く統計学
15. まとめ

成績の評価

レポート等(80%)、授業内課題への取り組み度(20%)で総合的に評価します。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、希望者にレポートを開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

講義の進行に沿って各自が主体的かつ積極的に学習する習慣をつけてください。

テキスト

特に指定しない。

資料としてプリントを配布します。

参考資料

適宜紹介します。

オフィスアワー

火・水・木曜日 12:10～12:40

研究室・授業用E-mail

診療研究棟4階407・tomura@kansai.ac.jp

講義コード	1J421011
講義名	東洋医療の基礎・導入教育
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	GE-1001
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

五十嵐 純、金井 成行、高岸 美和、相澤 慎太、井口 理、尾原 弘恭、織田 育代

目的

この科目は、本学の学びの核となる「東洋医療」についての基礎的理解をすることと、大学での学び方を学ぶことを目的としている。1つ目の目的である東洋医療は、柔道整復や健康指導の核となる人間の全人的理解を基盤にしており、両者の共通点もある。そこで、1年次の入学時にそれらの考え方を教授することで、より幅広い視野で医療や健康指導を理解することをねらいとする。もう1つの目的は、医療や健康指導に興味・関心を持ち、将来への希望に満ち溢れている学生に対し、大学での学びは、受け身ではなく主体的に学び、かつ、探究心を持つとともにやる気を維持することが大事であることを理解させ、これらについて自分で考え、理解し、実践できるようにする事をねらいとしている。

なお、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。本学学生が、専門教育を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身に付くように支援している。

到達目標

東洋医療を理解するとともに自分で考え、理解し、実践できるようになる。
eラーニングを活用できるようになる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／思考力・創造力

授業計画

1. 関西医療大学の変遷、医療人としての心構え（金井）
2. マナーについて SNSとの付き合い方など（井口）
3. 大学生としての心得1 資格取得のために（高岸）
4. 大学生としての心得2 レポートほか文書作成（五十嵐、織田）
5. 大学生としての心得3 資料の検索（織田）
6. 柔道整復の魅力と動機づけ① 歴史と社会的役割（尾原）
7. 柔道整復の魅力と動機づけ② 特徴と強み（尾原）
8. 柔道整復の魅力と動機づけ③ 活躍できるフィールド（尾原）
9. 柔道整復の魅力と動機づけ④ 関連医療資格との関わり（尾原）
10. ヘルスプロモーション整復学科と他の学科とのかかわり チーム医療として（五十嵐）
11. 東洋医療の知識① 東洋医療の考え方（五十嵐）
12. 東洋医療の知識② 東洋医療的な考え方の柔道整復術への応用【講義編】（井口）

13. 東洋医療の知識③ 東洋医療的な考え方の柔道整復術への応用【実技編】（井口）
14. スポーツと柔道整復 柔道整復師だからできるスポーツ・運動指導（相澤）
15. 柔道整復師が活躍できるフィールド 接骨院やチームトレーナーとして（五十嵐）

成績の評価

レポート70%、eラーニングの受講30%で評価する。
なお、eラーニングの終了を成績評価の条件とする。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後のレポートを開示する。

自己学習

レポート作成の基本をよく理解し、柔道整復師として必要な内容に関するレポートが書けるようになる。
大学が提供しているe-ラーニングを活用して自己学習する。
授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

オフィスアワー

木曜の12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階 401研究室 igarashi@kansai.ac.jp

講義コード	1J474011
講義名	基礎運動学
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
科目分類・分野名	人体の構造と機能
科目ナンバリング	J1-2007T
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 織田 育代	指定なし

目的

運動学は、人間の身体運動を科学的に解明する学問であり、正常運動を理解した上で様々な運動障害に対し柔道整復師として施術する際に必要な知識である。「人体の構造」「人体の機能」で学んだ知識をもとに、人体の各関節の運動から、筋収縮を促す神経のはたらき、収縮する筋群、筋収縮に伴って可動する関節の機能や構造について理解を深め、バイオメカニクスの基礎的な知識を身につけることを目的とする。

到達目標

基本的な身体動作・関節運動、その際の作用筋など身体運動の理解を目的とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

思考力・創造力／専門知識・技術

授業計画

1. ガイダンス、運動学の目的
2. 運動の表し方
3. 身体運動と力学
4. 運動器の構造と機能
5. 神経の構造と機能
6. 運動感覚
7. 反射と随意運動、
8. 中間試験、上肢帯・肩関節、機能と運動
9. レポート課題概要発表、肘関節・前腕・手関節・指の構造、機能と運動
10. 股関節の構造、機能と運動
11. 膝関節・足部・足関節の構造、機能と運動
12. 体幹・脊柱・頸椎の構造、機能と運動、
13. 胸椎・胸郭・顔面・頭部の構造、機能と運動
14. 姿勢・歩行
15. レポート課題提出期限、運動発達・運動学習

成績の評価

定期試験 (70%) + 中間試験 (10%) + レポート (15%) + 学習への取り組み度 (5%) = 総合 (100%)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

- ・定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

解剖学、特に筋学（筋の起始、停止部の名称、支配神経、作用など）を復習しておく。それらの知識を理解しているものとして授業を進める。

授業1コマにつき2コマ（180分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は国家試験科目である。また、「健康運動実践指導者」及び日本トレーニング指導者協会認定「トレーニング指導者」の指定科目になっている。

テキスト

「運動学 改訂第3版」（医歯薬出版株式会社）

参考資料

「基礎運動学 第6版」（医歯薬出版株式会社）

「ボディナビゲーション・ムーブメント」（医道の日本社）

オフィスアワー

金曜日 12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

3号館3階 HP教員室

orita@kansai.ac.jp

講義コード	1J475011
講義名	包帯学Ⅰ
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
科目分類・分野名	整復実技
科目ナンバリング	J1-3101
対象学科・学年	ヘルスプロモーション整復学科・1年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 高岸 美和	指定なし

担当教員（実務経験を有する資格）

高岸 美和〔柔道整復師〕

目的

骨折、脱臼、打撲、捻挫等を取り扱う柔道整復師にとって欠かせない技術である包帯を学ぶ。

到達目標

包帯についての総論を理解し、上肢・体幹部に対して、臨床上の目的に合った包帯を施すための基礎的技術を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識・技術／実践力・対応力

授業計画

1. 総論
2. 巻軸帯の基本型
3. 巻軸包帯（指）
4. 巻軸包帯（指・手関節）
5. 巻軸包帯（前腕）
6. 巻軸包帯（肘関節）
7. 巻軸包帯（肩関節）
8. 冠名包帯法 1
9. 冠名包帯法 2
10. 冠名包帯法 3
11. 上肢包帯の復習
12. 実技試験
13. 冠名包帯法の復習
14. 実後試験
15. まとめ、応用

成績の評価

授業時間内に実施する実技試験（100%）により評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

実技試験終了後に総評を行う。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

予習：巻軸帯の基本形の確認

復習：講義内容の理解と実技練習（モデルを変えてたくさんの人に巻く）

テキスト

「包帯固定学」改訂第2版（南江堂）

随時プリントを配布する。

オフィスアワー

前期：月曜日（16：40～18：00）

後期：木曜日（16：40～18：00）

研究室・授業用E-mail

研究室：診療・研究棟4階 415研究室

E-mail：takagishi@kansai.ac.jp